

戦気 NO-24

Fighting Spirit

12月15日、後楽園ホールで行われた「Ultimate Battle Vol.1」に三谷大和スポーツジム所属の4選手が出場し、結果は3勝1敗でした。

ライトフライ級 鬼ヶ島竜 逆転TKO勝利!

第7試合に鬼ヶ島竜が登場した。対戦相手は青野弘志選手(8勝3KO1敗、角海老宝石ジム)。昨年度ミニマム級とライトフライ級で全日本新人王を制した者同士の対決となった。結果は8R1分33秒の逆転TKOで鬼ヶ島が勝った。勝ったとはいえ鬼ヶ島にとっては薄氷を踏む戦いだった。3Rまでは両者一進一退で互角の戦いだったが4Rに鬼ヶ島の足が止まり青野選手のパンチを正面でまともに被弾し拙い展開となる。3Rにバッティングで右頬を切った青野選手は流れる血をものともせず積極果敢に打ち出し鬼ヶ島は不利な形勢だ。7R鬼ヶ島がボディコンタクトの後に青野選手を投げ飛ばす形で減点1を宣告され、ますます厳しい試合展開となったが、左右のボディブローが随所に決まり青野選手のダメージが蓄積していくのも分かる。いよいよ最終8R両者果敢に打ち合いが続き、鬼ヶ島がボディ、フックの連続パンチでラッシュしている段階でレフリーが両者の間に入り1分33秒TKO宣言し、昨年の全日本新人王同士の戦いは逆転で鬼ヶ島が勝利した。鬼ヶ島は試合後、「今日は全く駄目だった。まだまだ課題が多すぎる」と述べ、戦いには勝利したが今後克服しなければならない問題点が多いことを自覚する感想だった。

第6試合 スーパーフェザー級 鈴木 淳 判定負け(12/15)



鈴木淳は、ランドジムから三谷大和ジムに移籍後の第1戦。相手は藤沢一成選手(レパード玉熊ジム、14戦8勝2KO4敗2分)。開始早々、淳は相手のパンチで右目を負傷し、2R途中でドクターチェックが入った。淳にとっては対戦相手が二人に見えるため、右目をグローブで覆いながら左目だけで戦う距離の掴めない苦しい試合となった。その不利な状況で最終8Rまで戦ったが3:0(77-76,77-76,77-75)の判定負け。淳はファイト一杯で戦う元気な選手なので残念な戦いだった。眼を治療し元気な姿でリングに登場するのを待っている。

ごんごちゃんは見えた!!



三谷大和スポーツジムは人間教育をジム方針のひとつに掲げています。何のためにジムに通ってボクシングを学んでいるのか。ボクシングが強ければそれだけでいいというものではありません。ボクシングというスポーツを通して自分自身の人間性が広がるようにすることで、他人に言われて動くのではなく、自分自身が自主的に動くからこそ自己実現も可能になるのです。これは日常の些細な事象であっても、その事象をどう捕らえ、どう考え、どう行動するのか、ということ意識的に続けていく(訓練を自らに課すことで徐々に身に付いていく)行動形式です。ジムの外での行動でも常に自分の人間性が広がるようにすることで、ボクシングを続けられる期間は長い人生なかでも過ぎ去った夏のように短いのです。ジム生諸君!ボクシングを学ぶ中から良い人生の契機をつかんでいこう。

発行者:三谷大和
編集者:岩井 淑
八千代市八千代台東1-44-13 三谷大和スポーツジム
電話&Fax:047(486)2476 ツヨクナロー
メール:mitani-y@khaki.plala.or.jp
URL:http://www.mitani-yamato.com/

マスコットの
ごんごちゃんです!



Ultimate Battle Vol.1



第3試合 スーパーライト級・デビュー戦 佐藤ヒロト 判定勝ち(12/15)



学校の教員になる希望を持ちながらボクシングを続けている大学生ヒロトのデビュー戦。対戦相手は山内直義選手(デビュー戦、西城ジム)。ヒロトはプレッシャーに打ち勝ち、見事な判定勝利。最初、ヒロトの眼は泳いでいたが次第に落ち着いていった。頭が低い度々レフェリーから注意を受けたが、頭を上げないと相手も見えないしバッティングで危ない。ヒロト、デビュー戦勝利おめでとう!リングサイドでお母さんが喜んでいました。

第1試合 フライ級・3連勝 林 涼樹 判定勝ち(12/15)

デビュー2連勝のオニギリの対戦相手は闘魂タクロウ選手(3勝2KO3敗1分、ワタナベジム)。オニギリは緊張していたのか動きが鈍い。対戦相手の乱打戦に巻き込まれオニギリの得意とするアウトボクシングが出来ない。足を使い出したのは3Rからである。こうなると本来のオニギリの動きが光ってくる。結果は3:0(39-37,39-37,39-37)の判定勝利。これでオニギリは今年3月にデビューして以来3連勝だ。この勢いに乗って来年は新人王戦に突入だ。がんばれ!

三谷会長のコメント

今日のオニギリは60点くらいかな。技術は持っているが、少し押し出しが弱かった。ヒロトは100点。不器用だけれどよく指示を聞いている。それが勝因。鈴木は1ラウンドの眼の負傷がなければ判定で勝っていたけれどアクシデントなのでしかたがない。鬼ヶ島は40点くらいで練習の成果が出せなかったけれど挽回して勝った。あの階級で相手を倒せるということはミニマム級に戻ったら物凄く強い。来年はミニマムに戻る。

スケジュール

12月27日 三谷大和スポーツジム忘年会
2月08日 福本雄基、加藤健太、

編集後記

今年(2009年)の三谷大和スポーツジム所属選手の年間試合は37試合行われました。戦績は24勝12敗1分です。勝率67%。全国280ジムの中でも年間30試合以上では上位5位に入る戦績です。選手諸君、お疲れ様。自己自身を省みて夢に向かって前進しよう!